

WHO 「精神と行動の障害」 アドバイザリー・グループの活動

第 11 回社会保障審議会統計分科会疾病、傷害及び死因分類専門委員会委員
東京医科大学精神医学講座
飯 森 眞喜雄

第 10 回本委員会以降の活動状況は下記の 1～4 である。

1. 精神部門の分野別専門委員会（TAG）である「ICD-10 精神および行動の障害のための国際AG」会議が平成 23 年 2 月 23 日～24 日に開催され、ICD-11 では clinical utility に重点が置かれることが再度確認された。また、前回 AG 会議でも討議された、現行の F0～F9 の大枠についてどのようになすべきかが再度討議された。
2. AG の下部組織として Formative Field Study Coordinating Group (FFSCG) が活動しているが、このグループによる Study A および B という仕分け研究の結果が平成 23 年 4 月 1 日頃に終了し、この結果を待って、clinical utility に重点を絞った大枠の分類が決められていく予定であることが報告された（Study A および B には日本の貢献が大きく、特に Study B では協力者数が 2 番目に多かった）。
3. 前回の本委員会で報告したように、より専門性の高い知識が必要とされ、クリニカルガイドラインのたたき台を作成するWGが設置されており、これまでに「精神病性障害」「児童および思春期の精神障害」「知的および学習障害」「パーソナリティ障害」「物質関連障害」「プライマリケア」の 6 つのグループが活動しているが、この他に「気分および不安関連障害」「ストレス関連障害」「身体的苦悩および解離性障害」が組織されつつある。また、認知症などの器質性精神障害を中心とする「神経認知関連障害」は神経疾患の AG の配下におかれるWGとも協力していくことが報告された。このうち「精神病性障害」の第 2 回会議が平成 23 年 1 月 31 日～2 月 1 日に WHO 本部で開催され、FFSCG を代表して丸田が参加した。他のWGも活動を開始している。
4. 前回本委員会で報告した、WHO が世界精神医学会（WPA）と協力して行う WHO-WPA Survey については日本から 312 名（回答率 62.4%）の参加があり、中国を含む東南アジア諸国の参加の約半数を占めた。
5. 次回、AG 会議は平成 23 年 8 月頃に WHO 本部で開催予定である。

以上